

■ 中津川市立中津川幼稚園

1 実態

3歳児5名、4歳児4名、5歳児10名、全園児で19名の少人数の園である。

5月の歯科検診は、未処置歯2本を有する子1名、歯石(ZS)1名、反対咬合1名という結果だった。全体的に見ても、むし歯がある子が2名という少ない人数だが、その2名を見ると、共に5歳児であり、複数本むし歯がある。また、4歳児の時からむし歯ができて始めているという共通点があった。

2 ねらい

幼いうちからはみがきの仕方をしっかり覚えることを通じて、口腔衛生への関心を高めていく。

3 実践

○家庭での実態を把握するために、保護者にアンケートを実施した。アンケート内容とその結果は以下の通りである。

- ・お子さんは自分で歯をみがいていますか？ はい17人 いいえ2人
- ・仕上げみがきをしてあげていますか？ はい19人 いいえ0人
- ・どんなものを使ってみがいていますか？
 歯ブラシ19人 その他・・・歯間ブラシ、糸ようじ9人 電動ブラシ1人
- ・フッ素をしていますか？ はい15人 いいえ4人
- ・歯について困っていることはありますか？
 自分でみがくと簡単に済ませがち、まだしっかりみがけず手がとまってしまう
 歯並びが悪い、口がいつも開いている、指すいが気になる
- ・決まった時間におやつを食べていますか？ はい15人 いいえ4人
 はいの子…15：00～16：00 いいえの子…ほしがる時、食べたい時に
- ・どんなものを食べますか？（多い順）
 スナック菓子11人、チョコ10人、グミ8人、果物5人、せんべい、干し芋、アイス3人、
 ラムネ、ゼリー、ガム、クッキー2人、
 するめ、ドーナツ、あめ、チーズ、米菓子、ポップコーン、ビスケット、ハイチュウ1人
- ・お子さんが好きなおやつは何ですか？（多い順）
 チョコ10人、グミ、スナック菓子7人、果物4人、
 せんべい、ゼリー、ハイチュウ、クッキー2人、
 するめ、チーズ、アイス、ラムネ、1人
- ・おやつについて気をつけていることはありますか？
 食べ過ぎないようにする、夕食に影響しないように量に気をつける
 甘いおやつならお茶を飲み、ジュースなら甘くないおやつにする、食べた後にお茶を飲む

①集団指導

ア 実施時期

9 / 15 はみがき教室

イ 内容

市の健康医療課の職員が来園し、各学年に分かれ、はみがきの大切さやはみがきの仕方を指導してもらう。また、食べ物やおやつについて、食べる時の姿勢の話など、いろいろな角度から歯を守る話を園児に分かりやすく話してもらう。

ウ 成果

コロナ禍で、数年できていなかった歯ブラシを使った指導を行ってもらえたことにより、歯ブラシの動かし方などを実際に体験し、確認することができた。



②個別指導

ア 実施時期、対象者数

イ 内容

ウ 成果

個別指導は特に行っていない

③学校歯科医における保健に関する指導

ア 実施時期、対象者数 保護者の参加の有無
5 / 17 歯科検診 17名 (2名欠席) 保護者の参加なし

イ 内容

園の歯科医による歯科検診 (年に1回)

ウ 成果

園児の口腔内の状態を把握することができた。むし歯があった子に結果を知らせると、保護者はすぐに歯科医院を受診し、処置してくれた。

4 成果と課題

○アンケートの結果を見ると、保護者側の子どもの歯に対する意識が高く、家庭で充分気をつけていることが分かった。そのことが、園児のむし歯が少ないという現状に表れていると感じた。

こうした背景には、歯科指導を継続してきたことや、保護者自身が歯科指導を経験してきていることも影響していると考えられる。

●今後は、アンケートの結果を保護者にも返して、周りの方との比較をしながら、さらに意識を高めていきたい。そうして、子ども自身が歯みがきをする習慣を定着させるとともに、おやつの内容について配慮する気持ちを育てていきたい。

■ 岐阜市立網代小学校

1 実態

岐阜市立網代小学校は、全校児童 50 名の小規模校である。

ハイリスクアプローチ指導を実践するにあたり、本校の傾向を把握するため、過去 5 年間の未処置歯所有児童数、歯肉炎・歯垢「2」の児童数とその割合を算出した。結果は、下記のとおりである。

年度	未処置歯所有児童数 () 割合	歯肉炎「2」児童数 () 割合	歯垢「2」児童数 () 割合
令和元年度	24 名 (60.0%)	0 名 (—)	0 名 (—)
令和 2 年度	17 名 (29.3%)	0 名 (—)	0 名 (—)
令和 3 年度	12 名 (22.6%)	0 名 (—)	1 名 (1.9%)
令和 4 年度	9 名 (18.4%)	0 名 (—)	0 名 (—)
令和 5 年度	6 名 (12.0%)	0 名 (—)	0 名 (—)

なお、令和 5 年度の未処置歯所有児童の学年別の内訳は下記のとおりである。

	未処置歯所有児童の内訳 () 1 名あたりの所有数
1 年	1 名 (乳歯 3 本)
2 年	
3 年	
4 年	1 名 (乳歯 1 本、永久歯 1 本)
5 年	3 名 (乳歯 1 本) (乳歯 2 本) (永久歯 1 本)
6 年	1 名 (永久歯 1 本)

2 ねらい

新型コロナウイルス感染症が第 5 類へ移行し、アフターコロナの生活様式となった。

今後、どの感染症が流行しても継続可能な給食後の歯みがき、歯科指導を構築することにより、ハイリスク児童が減少し、子供らの歯と口腔の健康の保持増進につながるよう学校、家庭、学校歯科医が連携を密に図っていく。

3 実践

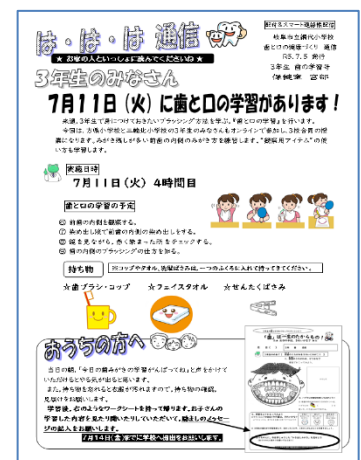
(1) 学校と家庭とが手を取り合って実施した実践

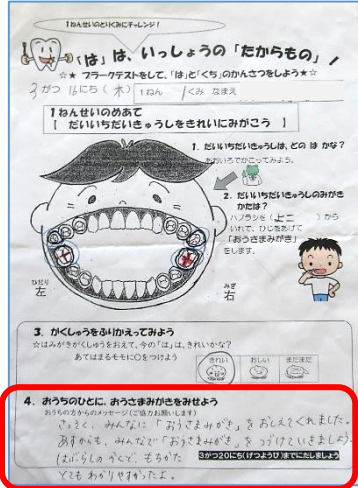
①集団指導： 学級活動『家庭連携型学習』

ア 実施時期…通年 全学年…年間 1～2 時間

イ 内容

- ・指導前に、歯と口の健康づくりに特化した通信を配信し、学習内容を家庭と共有した。
- ・各学年で生え変わる永久歯に合わせたブラッシング方法を習得する。
- ・習得後、その成果を家庭で披露し、励ましのメッセージをもらったり、家族に広めたりした。





- ・保護者に学習した内容を伝えることで、ブラッシング方法を共有できた。
- ・家族みんなに歯と口の健康を保つためのブラッシングに関心をもってもらう機会となった。
- ・保護者のコメントからブラッシングの習熟度が確認できた。
- ・歯みがきタイム等で、個々の習得状況に合わせて、ブラッシング方法を再確認できた。

ウ 成果



自分の歯列に合ったブラッシング方法を身に付けた後、家庭でも見届けができるようになった。

②個別指導：継続可能な給食後の歯みがきタイムでのブラッシングサポート

ア 実施時期 通年

対象児童 全児童

※ハイリスクアプローチ対象児童の見届け、及びブラッシング時のサポート

イ 内容

- ・右記のように、継続可能な歯みがきタイムを実施し、毎日の給食後の歯みがきで、全校児童及び対象児童へのブラッシング時のサポートを実施する。
- ・歯みがきソングに合わせ、効果的なブラッシングを実践できるよう、児童らのお手製オリジナルポスターを歯みがきで使用するフロアの随所に掲示し、それを活用して対象児童らに巡回指導も実施する。

”with コロナ”生活～現在の歯みがきタイム実施のプロセス

<p>令和4年度 4月～：コロナ対応の歯みがきタイム開始</p> <ul style="list-style-type: none"> ・方法：①床に足型を設置し、密集回避 ②水道は1つおきに使用 ・児童への説明：養護教諭（プレゼン：別紙） （発育測定時、保健日より、掲示） *条件：・宣言下ではない、感染者がいない
<p>歯科健診時：学校歯科医に相談</p> <p>感染対策を講じれば、歯みがきは継続可能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対策：密集回避 <p>日本学校歯科医師会提案の“エチケット歯みがき”を参考に</p>
<p>6月～：歯みがきタイムの実施方法を改定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・方法：・4月の方法は継続 ①エチケット歯みがきの導入 ②時間差歯みがき ・児童への説明：指導部会のメンバー（プレゼン：別紙） （Teamsによる一斉指導「ははは通信」、掲示） *条件：実施後の床消毒
<p>9月～：夏休み明けの再確認</p> <ul style="list-style-type: none"> ・方法：・4月の方法は継続 ①エチケット歯みがき ②時間差歯みがき ・児童への説明：指導部会のメンバー（プレゼン：別紙） （全校集会以の一斉指導「ははは通信」、掲示） *条件：実施後の床消毒
<p>令和5年度 5月8日～：第5類移行の生活へ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・方法：足型撤去 ①エチケット歯みがきの継続 ②時間差歯みがきの継続 ・児童への説明：養護教諭 Teamsによる一斉指導（プレゼン：別紙） *条件：実施後の床消毒



継続可能な歯みがきタイムの実施



ウ 成果



- ・継続可能な歯みがきタイムを実施することにより、毎日給食後に口腔内の清潔を保つことができるようになった。
- ・全校児童がランチルーム前のフロアで歯みがきをすることにより、対象児童にも毎日個別指導を実施することができるようになった。

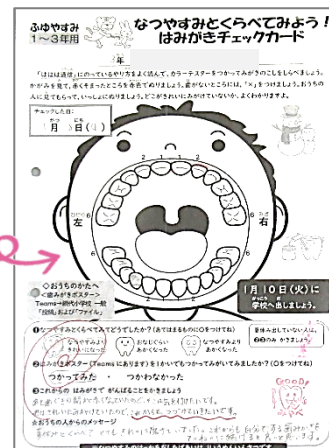
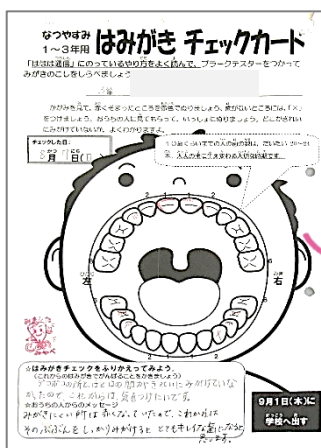
③長期休業期間の家庭での技能向上を目的とした予防的歯みがき活動

ア 実施時期 7～8月

対象児童 全児童

イ 内容

- ・夏季および冬季休業期間中にプラークテストを実施する。
- ・夏季休業期間で実施した結果をもとに再度冬季に実施し、自分の歯みがきの仕方を振り返りウイークポイントを見つけ、改善方法を追究し、結果をもとにハイリスクの予防に努める。



ウ 成果

- ・長期休業期間中にプラークテストを実施することで、家庭における歯と口の健康への関心度を高めることができた。
- ・家庭で2回のプラークテストを実施することにより、夏季における課題点を冬季には再確認でき、改善を図ることで、齲歯や歯肉炎等のハイリスクの予防意識を高めることができた。

(2) 学校歯科医との連携

年2回の歯科健診時における個別指導および事後措置

ア 実施時期、5月と12月

対象者数 全校児童

イ 内容

- ・第1回の歯科健診では、齲歯や歯肉炎、歯垢等の有無を確認し、受診勧告をする。COやGOは、その場でどこに存在するのかわせ、ブラッシングの仕方を個別指導する。
- ・健診終了後には、岐阜市立の小中学校共通の結果のお知らせに併せて、本校独自の齲歯やCOの位置を記したカルテを配付し、治療率の向上とCOのケアに努める。
- ・第2回の歯科健診では、1回目の健診結果をもとに経過観察をし、改善した所や新たに治療が必要になった所を明確にし、個別指導をする。



川辺町立川辺北小学校

1 実態

前年度、本事業のモデル校として1年間取り組んだ結果、5年生(現6年生14名)の軽度歯肉炎の児童が指導前(11月)6人から指導後(12月)1人まで減らすことができた。そして今年度4月の歯科検診においては、2名であり、指導の効果と、機会あるごとの働きかけによる良好な状態の維持ができた。

学年	むし歯3本以上+歯石	むし歯3本以上+歯石+歯肉1	
	R5	昨年度	今年度
1年	1/11人 (9%)		1/11人 (9%)
2年	1/20人 (5%)	1/21人 (5%)	4/20人 (20%)
3年	1/14人 (7%)	1/14人 (7%)	4/14人 (29%)
4年	2/23人 (9%)	13/23人 (57%)	12/23人 (52%)
5年	0/18人 (0%)	9/18人 (50%)	6/18人 (33%)
6年	0/14人 (0%)	8/13人 (62%)	2/14人 (14%)

そこで今年度も5年生に焦点を絞り取り組むこととした。

今年度4月の歯科検診の結果は右表の通りである。

2 ねらい

児童会、学級担任、養護教諭、栄養教諭、学校歯科医などが協働することで、児童自ら歯と口の状態を良くしようとする姿を目指す

3 実践

①集団指導

ア 実施時期(年間を通して実施・特に6月と11月は強化月間に位置付けた)

イ 内容

- ・毎日の給食後の歯磨き、お昼の放送での呼びかけ(保健給食委員会)、フッ化物洗口の実施(毎週水曜日)
- ・保健給食委員会の児童が児童集会で歯みがきクイズの発表をした。児童がクイズを考え歯みがきの大切さを全校に知らせた。その後に行ったキャンペーンの取組を通して、歯をすみずみまで磨くこと、飛沫が飛び散らないようなうがいの仕方を全校で気を付けることができた。(6月)
- ・各家庭でカラーテストを実施した。(11月:全校児童対象)
- ・給食でよくかんで食べる日に「かんちゃんマーク」を付けて啓発している。
- ・毎月8の付く日は「歯の日」とし、歯に良い給食を提供した。
- ・11月6日~10日を「いい歯の週間」とし、よくかんで食べるものやカルシウムの多い給食を意図的に提供した。



【保健給食委員による歯磨きクイズ】



カラーテスト(家庭で実施)

6日(月) いい歯の週間	7日(火) 西小青空給食	8日(水) いい歯の日	9日(木)	10日(金)
<p>小2こ 中3こ</p> <p>(ト)ちゅうか サラダ</p> <p>ホーク シューマイ</p> <p>のぼろはん、マーボー(肉)いん (小) 654kcal (中) 813kcal</p>	<p>マ</p> <p>ゆでブロッコリー</p> <p>ホキの レモンぶらり</p> <p>えだまめと わかめのにんじん、しるあましる</p> <p>(小) 613kcal (中) 766kcal</p>	<p>ミニみかんゼリー</p> <p>(ト)こぼろサラダ</p> <p>わかさぎの あます</p> <p>のぼろはん、にくしゃが</p> <p>(小) 670kcal (中) 830kcal</p>	<p>ヨーグルト</p> <p>(ト)コーンわかめサラダ</p> <p>やきそば</p> <p>ココアあげパン</p> <p>(小) 669kcal (中) 838kcal</p>	<p>がおりあえ</p> <p>どりにくの てりやき</p> <p>のぼろはん、 かきしる</p> <p>(小) 622kcal (中) 745kcal</p>

5年生には、よくかんで食べることの効果「ひみこのはがいで」について説明し、がんばりカードを使って、よくかんで食べることやしっかり歯磨きすることについて取り組んだ。



取組の事前指導「かむことの効用」



担任による働きかけ



取り組めたら、シールを貼る

期間中、担任が「かんちゃんマーク」を持って働きかけたり、保健室前の廊下に資料を掲示したりし、かむことを意識して食べることができた。

ウ 成果

委員会活動やいい歯の週間などで意図的に働きかけることにより、よくかんで食べることやしっかり歯磨きをすることを意識づけることができた。



掲示資料「かむことの効用」

また、家庭でカラーテストをすることで、自分の歯磨きの磨き残しを知ることができ、更に具体的な歯みがきの仕方考えることができた。また、家庭の協力もあり、家族で問題点が共有できた。

〈カラーテスト取組後の感想〉

- ・歯の隙間に色が付いているので、明日は、糸みがきで食べ残しを取りたいです。
- ・思ったより下は磨けていたけど、前歯が磨けなかったから、そこを意識して磨きたいです。

②個別指導及び学校歯科医における保健に関する指導

ア 実施時期（4月、11月、12月）

対象者数（4月は全校、11月と12月は、5年生（18人）のみ）

イ 内容

- ・4月歯科検診（全校）
- ・11月歯科指導

（学級活動：担任・養護教諭・学校歯科医による指導）

「歯と口の健康を考えよう」の学習で、自分の歯肉の状態を確認後、学校歯科医が一人一人の歯の状態をていねいに検診し、具体的に口の状態を児童に伝えた。学校歯科医から特別に診断してもらうことで、自分の口の状態がよく分かっただけでなく、普段ではできない体験だったので、心に響いた様子でした。



歯科医の先生による指導

授業の様子をおたよりにし、歯みがきカレンダーを付け、家庭で2週間歯肉炎の改善を目標に取り組んだ。

・ 1 2 月 歯科 検診

給食後の歯磨きや家庭で取組を2週間終えて、学校歯科医による検診を再度実施し、歯肉炎が改善されているかを確認した。



【取組後、2回目の歯科検診】



ウ 成果

1 1 月の検診では、軽度歯肉炎の児童が7人から、1 2 月は4人となった。

〈検診後の児童の感想〉

- ・ 1 1 月のとき歯肉1だったので、2週間ていねいに歯みがきをしたら、歯肉炎が良くなったのでうれしかった。2週間で良くなることが分かった。
- ・ 毎日しっかりと磨いて、歯肉炎にならないようにしたいと思った。
- ・ 一生使う歯なので、80歳に20本以上残せるようにしっかりとみがきたいと思った。

〈学校歯科医から〉

- ・ 次回の歯科検診は、6年生の4月（小学校最後）であり、今の状態を維持してほしい。現在、歯肉1と判定された人も、次回は「歯肉炎なし」になっていることを期待します。

1 1 月及び1 2 月の検診時に休んだ児童がいたが、11月のときは、2週間の取組のための内容を養護教諭がていねいに伝え、取り組めた。1 2 月のときは、学校歯科医から、後日個別に検診をしてくださると言っていたので、取りこぼしの無い取組となることに感謝したい。

4 成果と課題

- 学校、学校歯科医が連携を図り、指導内容を検討したことで、効果的な指導ができた。
- 前年度同様、5年生に重点を置いて指導した結果、短期に集中して取り組むことができ、歯肉炎の改善が図られ、意識の高まりが継続できることが分かった。また、小規模校ならではの特性を生かし、一人一人をていねいに検診しアドバイスを頂けたことにより、児童は意識や行動を変えることができた。
- 今後は、年間指導計画に位置付け、意図的計画的に継続して取り組み、歯と口の健康が維持できるようにしたい。また、家庭と連携して維持向上につなげたい。
- 2週間で歯肉の状態が良くなった児童もいるが、逆に悪くなった児童もいることから、日々の歯磨きがいかに大切かが分かる。今後も機会あるごとに指導していきたい。

■ 岐阜県立多治見高等学校

1 実態

全校生徒529名のうち、未処置歯ありの生徒は14.7%（78名）、「歯垢の状態2」3.2%（17名）、「歯肉の状態2」14.7%（78名）であった。特に3年生に要受診者が多い。定期的に歯科を受診している生徒もいるが、受診に至らない生徒も少なくない。毎年、数回にわたって受診勧告を行っているが、本年度は個々への指導を重点的に行うこととした。

2 ねらい

本年度は、感染症拡大の関係により、全校生徒の半分以上が10月に歯科検診を実施した関係もあり、11月末の時点で受診率が24.9%であった。（昨年度は44%）早期治療につなげるために医療機関受診の促進、普段の歯磨き改善をねらいとして集団・個別指導を実施した。

3 実践

① 集団指導

- ア 実施時期 令和5年12月5日～12日
- イ 内容 未受診者に対し、健診結果の確認、受診報告書の再配付。
歯科指導プリント配付。
養護教諭による指導。
- ウ 成果 再度健診結果を配付したことにより、保護者とともに歯科医受診へ行くという生徒がおり、受診につながった。改めて受診項目を確認し、歯周病や虫歯について放置してはいけないことを伝えた。



② 個別指導

- ア 実施時期、対象者数 10月5日～7日 未受診者
- イ 内容 受診状況調査、受診勧告
- ウ 成果 受診をしたが受診報告書を提出していない生徒の把握ができ、正確に未受診者を知ることができた。また、受診予定の有無を確認することができたため、保健室への報告や、受診の大切さを生徒個人に伝えることができた。

③ 学校歯科医における保健に関する指導

- ア 実施時期 学校歯科医の先生に、高校生へ受診を促す助言プリントを作成していただいた。
- イ 内容 医療機関としての立場から、「虫歯ができてしまった人へ伝えたいこと」として、歯を失うことのリスク、虫歯と歯周病の違いなど、自分の口腔内と向きあうことの大切さを助言いただいた。

ウ 成果 養護教諭が保健指導をする際に、指導内容を助言いただき、生徒へ伝えることができた。

●学校歯科医より 指導抜粋

～虫歯ができてしまった高校生に伝えたいこと～

- ・年を取ってから今まで歯磨きをしてこなかったこと、自分の歯に無頓着だったことに後悔する人が多い。
- ・虫歯になって削った歯（歯質）は元に戻ることは無い。怪我をして皮膚や骨や筋肉は元に戻るが、歯はもとに戻らない。いかに残すかが大事。
- ・虫歯と歯周病は別物。虫歯になりやすい人もいれば、なりにくい人もいる。歯周病になりやすい人もいれば、なりにくい人もいる。自分がどのタイプか知って日々の生活習慣を見直し、対策を講じよう。

4 成果と課題

個々に受診状況を確認したことで、受診状況の実態が把握できた。受診報告書の提出がない生徒の中にも、何名かは受診済の生徒がおり、そういった状況把握ができたので、指導対象を的確に絞ることができた。ハイリスク者というより、未受診者全員に指導を行ったので、受診項目がある生徒全体への指導を行うことができ、受診へとつなげることができた。

予約が必要であったり、費用がかかったりするということもあり、生徒だけでなく、保護者へのアプローチが不足していたので、今後はそういった対策をし、受診率を上げるようにしていきたい。また、二回目の歯科指導に関して、計画していても、対象者が感染症などで実施できない場合もあり、指導のタイミングの難しさを感じた。集団指導も大切だが、個別で受診状況を定期的を確認し、受診を促すことの重要性を感じた。

1 実態

全校生徒241名の内、「未処置歯あり」が44名、「歯垢の状態1及び2」が128名、「歯肉の状態1及び2」が103名であった。そのうち、「歯垢の状態2」が13名、「歯肉の状態2」が5名おり、歯垢・歯肉ともに「2」の生徒が5名であった。歯及び口腔内の状態に対する理解が低い場合や、歯科医院を受診することが難しい家庭も多い。そのため、歯及び口腔内の健康状態が心配である。

2 ねらい

歯垢の状態を知り、歯の大切さを理解させる。

歯科医を受診し、完治させる。

3 実践

① 集団指導

ア 実施時期

定期健康診断終了後～

イ 内容

- ・健康診断結果配布時に担任より歯科受診の勧めや、ほけんだより（6月配布）に歯周病や歯みがきのコツについて紹介し、指導を行った。
- ・受診報告書による報告がなかった生徒には、三者懇談時に担任より受診の依頼を保護者に行った。

② 学校歯科医における保健に関する指導

ア 実施時期、対象者数 保護者の参加の有無

令和5年10月13日

歯科検診において「歯肉・歯垢の付着」のいずれかの項目で要受診と判定され、
歯科未受診6名（内1名欠席）対象 保護者の参加なし

イ 内容 学校歯科医及び歯科衛生士による歯科指導（歯磨きの仕方、糸ようじの使用方法）

ウ 成果

<生徒の感想>

- ・むし歯や歯周病についてよく知ることができた。歯ブラシを縦にして磨いたほうがよくきれいに磨けることを知れた。これからは教えていただいた磨き方で歯みがきを行いたい。
- ・歯をしっかり磨いてきれいになりたいし、おいしいものを食べたいので、歯を大切にしようと思った。またきれいな歯の状態を続けることを意識したい。
- ・初めてしっかりとした歯みがき指導をしてもらった。今後のために教えていただいたことを生かそうと思った。
- ・普段からあまり磨けていなかったのので、歯科指導で学んだ磨き方で歯を磨いていきたい。
- ・朝晩に忘れず歯みがきを行い、むし歯にならないようにしたい。

4 成果と課題

- 学校歯科医及び歯科衛生士による歯科指導で、普段の磨き方を見ていただき、歯みがきの見直しにつながった。
- 一人ひとりにあった磨き方のポイントを教えていただくことができ、むし歯や歯周病にならないようにしっかり歯みがきをしようと思う意欲につながった。
- 歯科指導をしていただいたことで満足してしまい、歯科受診をする生徒がいなかった。
歯みがきの大切さや磨き方を学ぶ機会にはなったが、歯科受診をして歯や口腔状態が改善できるよう、受診を促す必要がある。
- 単発的な指導となってしまい、今後どのように継続的に指導を行っていくかが課題である。